

【短報】本州におけるコケシトガリハネカクシの記録

図1. 神奈川県産コケシトガリハネカクシ *Medon tomokoae*.

コケシトガリハネカクシ *Medon tomokoae* Shibata & Fujimoto, 2017 は、四国から記載された潮間帯性のアリガタハネカクシ亜科トガリハネカクシ属の一種である。細長く扁平な体型や淡い体色、頭頂部に dark tentorial maculae が認められることなどを特徴とする (Shibata & Fujimoto, 2017)。

本種は現在までに、タイプ産地を含む香川県内の瀬戸内海沿岸からの採集例のみが知られていたと思われるが、筆者は以下のように本州神奈川県太平洋沿岸において本種を採集しているので報告する。同定には原記載

を参照した。

1♂ (図1-3), 神奈川県小田原市東町山王海岸, 25. III. 2018, 筆者採集・保管。

採集地は相模湾岸の酒匂川河口西側に位置する海岸である。上記の個体は波打際の石の下から見出された。

なお、原記載によれば本種はタイプ産地やその周辺地域において、径5-10 mmの中礫からなる礫

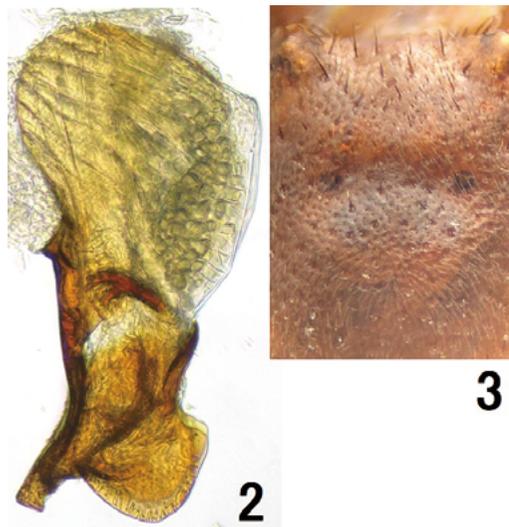


図2. 雄交尾器側面；図3. 頭頂部。

浜から採集されているが (Shibata & Fujimoto, 2017), 上記の山王海岸の潮間帯部分は、そのほとんどが径2 mm以下の砂からなる砂浜であった。本種の後翅は細く短く (Shibata & Fujimoto, 2017), 飛翔能力はないようであるが、後翅の退化した潮間帯性種のオオズウミハネカクシ *Liparocephalus tokunagai* Sakaguti, 1944 では生息地周辺の砂浜に漂着した例が知られていることから (辻, 2017), 上記の採集地が本種本来の生息環境ではなかったとすれば、この採集例も、別の場所に生息していた個体が波によって流されてきたものである可能性が考えられる。

引用文献

Shibata, Y. & H. Fujimoto, 2017. A new intertidal species of the genus *Medon* (Coleoptera, Staphylinidae, Paederinae) from Kagawa, Japan. *Elytra*, New Series, 7 (1): 55-60.

辻 尚道, 2017. 福岡県からのオオズウミハネカクシの記録. さやばねニューシリーズ, (25): 46.

(齋藤 理 223-0062 横浜市港北区日吉本町

5-31-11)

【短報】対馬で採集したシギゾウムシ類の記録

対馬のシギゾウムシ類の分布記録は少なく、たとえば対馬の生物相をまとめた大著「対馬の生物」の昆虫目録 (白水・宮田, 1976) 中には、シギゾウムシ族の種は一種も記録されていない。筆者らは、対馬でゾウムシ類の分布調査を行う機会を何度か得ている。このうち、シギゾウムシ族について対馬新記録と思われるものや記録が少ないと思われる種を採集しているので、記録を報告する。

採集地の地名のうち「長崎県対馬市 (2004年3月以前は上県郡, 下県郡)」は省略し、地名で示した。採集者名は、野津採集のものはN, 藤本採集のものはF, 島村採集のものはSと略記し、それ以外についてはラベルに付されている採集者名のまま記した。各種の和名の後に付いた※印は、対馬未記録種と思われる種である。

採集記録

ツシマシギゾウムシ *Labaninus tsushimensis* Notsu, 1987

1 ex. (写真), 峰町三根・ユクミ, 16. V. 1999, F Notsu (1987) によって記載された種で、記載後の記録はない。シイ類の咲きかけた花のスウィーピングで得た。



写真. ツシマシギゾウムシ.

ムモンチビシギゾウムシ *Archarius antennatus* (Kôno, 1930) ※

1 ex., 巖原町豆酸 30. V. 1999, F ; 2 exs., 上県町深山, 5. V. 2005, N.

豆酸では、カシワのスウィーピングで得られた。

ウスモンチビシギゾウムシ *Archarius minutissimus* (Dalla Torre et Schenking, 1932) ※

1 ex., 巖原町竜良山, 22. VIII. 1966, S. Nomoto leg.

ジュウジチビシギゾウムシ *Archarius pictus* (Roelofs, 1874) ※

1 ex., 巖原町竜良山, 4. V. 1991, H. Yoshitomi leg. ; 1 ex., 巖原町有明山, 12. V. 1978, S. Hisamatsu leg. ; 1 ex., 巖原町有明山, 9. V. 1996, H. Yoshitomi leg.

レロフチビシギゾウムシ *Archarius (Toptaria) roelofsi* (Heller, 1927)

1 ex., 巖原町竜良山, 5. V. 1978, M. Sakai leg. ; 4 exs., 巖原町上見坂～美津島町白嶽, 7. V. 2005, N ; 1 ex., 上県町目保呂, 7. V. 1978, A. Oda leg. ; 8 exs., 上県町深山, 5. V. 2005, N.

対馬からは、御岳で10月の採集記録がある(野津, 1977)。

セダカシギゾウムシ *Curculio convexus* (Roelofs, 1874)

2 exs., 巖原町上見坂～有明山, 29. V. 1999, F ; 1 ex., 巖原町下原・日見林道, 3. V. 2005, S ; 7 exs., 巖原町上見坂～美津島町白嶽, 7. V. 2005, N ; 4 exs., 上県町瀬田・目保呂, 3. V. 2005, S ; 2 exs., 上県町瀬田・目保呂, 5. V. 2005, S ; 1 ex., 上対馬町舟志, 4. V. 2005, S ; 1 ex., 上対馬町大増, 4. V. 2005, S.

対馬からは巖原町有明山(野津, 1983)の記録がある。いずれも、ガマズミと思われる花から得られている。

アキグミシギゾウムシ *Curculio flavoscutellatus* (Roelofs, 1874) ※

2 exs., 上県町佐護, 16. V. 1978, S. Hisamatsu leg.

イヌビワシギゾウムシ *Curculio funebris* (Roelofs,

1874) ※

1 ex., 巖原町有明山, 22–23. V. 1982, N ; 1 ex., 巖原町有明山, 9. V. 1996, H. Yoshitomi leg. ; 1 ex., 豊玉町志多浦, 25. VI. 2000, S ; 3 exs., 峰町白椿山, 14–16. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 1 ex., 峰町大星山, 15–16. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 3 exs., 上県町志多留, 10. V. 1978, M. Sakai leg. ; 1 ex., 上県町志多留, 10. V. 1978, A. Oda leg. ; 1 ex., 上県町佐護, 10. V. 1978, M. Sakai leg. ; 1 ex., 上県町佐須奈, 13. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 3 exs., 上対馬町舟志, 4. V. 2005, S ; 3 exs., 上対馬町大増, 4. V. 2005, S ; 1 ex., 上対馬町鰐浦, 13–14. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 1 ex., 美津島町大船越, 16. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 3 exs., 豊玉町鍵川, 16–17. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 1 ex., Se-Uchiyama, 20. V. 1981, Y. Hori & K. Ishida leg. (産地を特定できなかったのでラベル通りに記載した)

島村採集分は全て、イヌビワの果実に集まっていたものを採集した。

クヌギシギゾウムシ *Curculio robustus* (Roelofs, 1874) ※

豊玉町烏帽子岳, 26–28. IX. 2014, N, アベマキ? 堅果採集, 神奈川県平塚市で室内飼育. 2 exs., 18. VI. 2015, 羽脱 ; 1 ex., 22. VI. 2015, 羽脱 ; 16 exs., 羽脱, 26. VI. 2015 ; 2 exs., 6. X. 2015, 羽脱 ; 1 ex., 上県町佐護, 15. IX. 2001, S.

コナラシギゾウムシ *Curculio dentipes* (Roelofs, 1874)

1 ex., 巖原町豆酸, 30. V. 1999, F ; 1 ex., 巖原町上見坂→有明山, 30. V. 1999, F ; 1 ex., 巖原町下原・日見林道, 3. V. 2005, S ; 1 ex., 美津島町鶏知ダム, 29. VII. 1979, Y. Seiyama leg. ; 2 exs., 峰町白椿山, 14–16. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 2 exs., 豊玉町鍵川, 16–17. V. 2010, N. Ohbayashi leg. ; 2 exs., 上県町佐護・千俵蒔山, 20. VIII. 1999, S ; 1 ex., 上県町佐護・椋梨, 20. VIII. 1999, S ; 1 ex., 上県町佐護・椋梨, 23. VIII. 1999, S.

対馬からはMorimoto (1981)の記録があるが、具体的な採集データは記されていない。

シイシギゾウムシ *Curculio hilgendorfi* (Harold, 1878) ※

1 ex., 上県町仁田, 10. X. 1998, K. Kurosa leg. ; 2 exs., 巖原町有明山, 7. IX. 2014, S. Matsuo leg. ; 豊玉町烏帽子岳, 26–28. IX. 2014, N, ウラジロガシ堅果を採集, 神奈川県平塚市で室内飼育. 1 ex., VIII. 2015, 羽脱 ; 豊玉町烏帽子岳, 25–26. IX. 2014, N,

スダジイ堅果を採集，神奈川県平塚市で室内飼育。
2 exs., VIII. 2015, 羽脱。

クリシゴゾウムシ *Curculio sikkimensis* (Heller, 1927) ※
2 exs., 美津島町上見坂, 28. IX. 2014, N; 美津島
町上見坂, 28. IX. 2014, N, アカガシ堅果を採集。神
奈川県平塚市で室内飼育。2 exs., 8. IX. 2015, 羽
脱; 1 ex., 巖原町宮谷, 13. IX. 2015, S. Matsuo leg.;
2 exs., 豊玉町烏帽子岳, 22. IX. 2015, S. Matsuo leg.
; 1 ex., 上県町佐護・御岳口, 16. IX. 2001, S; 1 ex.,
上県町佐護・仁田の内, 25. IX. 1999, F; 1 ex., 上県
町佐護, 14. IX. 2001, S.

仁田の内では，自動販売機の灯火に来ていた個
体を採集した。

末筆になったが，標本を恵与いただいた大林延
夫，酒井雅博，吉富博之，松尾進の各氏，標本写
真を撮影いただいた久米加寿徳氏に厚くお礼申し
上げる。

引用文献

- Morimoto, K., 1981. On some Japanese Curculioninae (Coleoptera: Curculionidae). *Esakia*, (17): 109–130.
野津 裕, 1977. 対馬のゾウムシ. 四国虫報, (22): 118–119.
野津 裕, 1983. シギゾウムシの生態. すかしぼ, (20): 21–23.
Notsu Y., 1987. Two new species of the subfamily Curculioninae from Japan (Coleoptera: Curculionidae). *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 18 (3, 4): 277–282.
Notsu Y., 2015. Two new species of the genus *Archarius* from India and Laos, with systematic note on the subtribe Archariina (Coleoptera: Curculionidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 21 (1): 177–182.
白水 隆, 1980. 「対馬の生物」以降における対馬昆虫相の知見の進展. 月刊むし, (117): 65–88.
白水 隆・宮田 彬, 1976. 対馬産昆虫類目録. 対馬の生物: 567–764.

- (藤本博文 760-0005 高松市宮脇町 1-17-4)
(野津 裕 259-1211 平塚市ふじみ野 1-33-14)
(島村 聡 014-0022 大仙市大花町 11-11-B)

【短報】対馬におけるマルチビガムシの記録

マルチビガムシ
Pelthydrus japonicus

M. Satô, 1960 は，本
州，四国の清流に生
息する日本固有種で
ある（佐藤，1985）。
環境省のレッドリス
トには挙げられてい
ないものの，全国的
に記録の少ない種で
あることが指摘され
ている（森本・中島，
2011；上手，2016）。



図1. 対馬産マルチビガムシ。

本種はこれまで九州
地域からの記録が無
かったが，筆者は，
対馬で本種と思われ
る個体を採集したの
で記録する。

2 ♀，長崎県対馬市美津島町洲藻，10. VII. 2018，
上手雄貴採集・保管（図1）。

採集した環境は，周辺が樹林で覆われた河川の，
岸辺から離れた流れの早い場所（図2）でヒメドロ
ムシ科を採集中に得られた。2頭同時に採集できた
が，その後は得られなかった。また，森本・中島
（2011）では，採集例の2例がそれぞれ違った環境
から得られているため，岸際周辺や植物の根際な
ど違う環境も探してみたが，追加個体は得られな
かった。

採集直後には，かなりの水圧を受けたからか，2
頭とも脚を伸ばした状態で動かなかったが，タッ
パーに入れてしばらくしてから動き出す姿が確認
できた。擬死していた可能性もあり，非常に興味
深い行動であった。

今回得られた個体は，2頭ともメスであったが，
和歌山県産，滋賀県産のマルチビガムシと比較し
て本種と同定した。ただ，朝鮮半島から本種の記



図2. 生息環境。